

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント	評価 (○,△,×)	コメント		
教育研究等の質の向上	基礎学力の強化と検証	国家試験合格者の維持・向上	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：英語復習、看護学科：(以下13学科) 国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：第3、4年生を対象とした模擬試験と国家試験ガイダンス、4年生を対象とした総合実力試験、4年生を対象に夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習支援及び4年生を対象とした国家試験マッピンググループで作成した国試対策用補充穴書きを用いたの国家試験に向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施したものの、看護師・保健師とも不合格率があった。成績不振者として注意している学生であったが、不合格という結果であった。今後、成績不振学生を早期に把握し、対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：引き続き、国家試験合格者の維持・向上のため、補講および模擬試験等、国家試験対策の継続(目標：合格率100%)。 ○ 国文学科：新学期オリエンテーションに第3、4年生を対象とした実力試験と国家試験に向けてのガイダンスを行い早期より国試対策に対する意識を高めた。年間を通して4年生を対象とした総合実力試験、夏期休暇時と年間を通しての国試対策補講、卒業論文指導教員による個々の能力、状況に応じた個別学習指導を行った。また4年生を対象とした国家試験マッピンググループ作成の国試対策用補充穴書きを用いて特に成績下位の学生にに向けての補強指導を実施した。 ○ 看護学科：計画通り、国家試験の合格者の維持(100%)のために、年間に実施する模擬試験の回数を増やし、学生の習熟度の評価を細かく行った。またカリキュラム外の模試の回数も増やすなどの対策を行ったが、目標の合格率を達成することができなかった。 ○ 看護学科：補講および模擬試験等、国家試験対策を例年通り実施し、看護師は全員合格した。保健師は不合格者がいたため、今後成績不振学生を把握し早期に対応していく必要がある。 		
		成績上位者に対する研究意欲向上のための施策	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各教員が学生の状況を見ながら働きかけるよう心がけたところ、一年生の一名が、4年次の全日本看護学会発表を目指して研究を始めた。日々の勉強に励み、研究に着手できる学生は少ないのが現状である。 	△	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各教員が学生の状況を見ながら働きかけるよう心がけが研究に着手できる学生は少ないのが現状である。しかし3年後期で卒業研究に入る際には研究に非常に興味を持って着手する学生が増えた。このような学生がさらに研究や大学院での研究に興味を持つよう指導したい。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：引き続き、卒業研究の早期開始(成績上位者)。
		出席管理の徹底による出席不良者への指導	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)活用による出席不良学生へのアドバイザーによる指導の徹底。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：出席が多い学生、成績不良の学生に対し、学生アドバイザーによる早期の対応ができた。 ○ 看護学科：アクティブポータルの出席確認の設定(アラートメール)を活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ○ 看護学科：出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。
		学力把握のためのアドバイザー制度の充実	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：アドバイザーによる、学生の学力把握の徹底。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、教務課、当該学年の授業担当者と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、学生相談室とも連携して指導した。またその状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告した。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：各学年にアドバイザーを置き、アクティブポータルの利用や当該学年の科目担当者、教務課、学生課、学生相談室と連携して学生の状況を把握した。成績不良者に対しては早期に面談を行い、その状況を毎月の学科会議の学生の動向で報告し、学科全教員でその状況を共有し教員でのサポート体制を取った。 ○ 看護学科：期末試験終了後、教員へ成績一覧を配布し、再試験科目の多い学生について、情報共有を徹底したことで、アドバイザーから早期の指導を行うことができた。 ○ 看護学科：成績不良学生へのアドバイザーによる成績の把握および指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。 		
		カリキュラムの検討及び改善	○	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3学科：社会情勢の変化に対応したカリキュラムの検討及び必要に応じた改善。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度からの変化に伴い、卒業研究のあり方について平成30年度11月定期評議会にて検討した。現在卒業研究は必修科目としているが、選択科目への変更、担当指導教員の決り方、学生数が4名を超えた場合の課題などについて協議した。結論には至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて継続協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2019年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2018年度前半に新カリキュラム改定の準備を終え、2019年度から新カリキュラムの導入予定。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度からの変化に伴い、卒業研究のあり方について平成30年度11月定期評議会にて検討した。現在卒業研究は必修科目としているが、選択科目への変更、担当指導教員の決り方、学生数が4名を超えた場合の課題などについて協議した。結論には至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて継続協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2020年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2019年度から新カリキュラムを導入した。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度からの変化に伴い、卒業研究のあり方について平成30年度11月定期評議会にて検討した。現在卒業研究は必修科目としているが、選択科目への変更、担当指導教員の決り方、学生数が4名を超えた場合の課題などについて協議した。結論には至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて継続協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2020年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2019年度から新カリキュラムを導入した。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度からの変化に伴い、卒業研究のあり方について平成30年度11月定期評議会にて検討した。現在卒業研究は必修科目としているが、選択科目への変更、担当指導教員の決り方、学生数が4名を超えた場合の課題などについて協議した。結論には至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて継続協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2020年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2019年度から新カリキュラムを導入した。 	◎	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国文学科：前年度からの変化に伴い、卒業研究のあり方について平成30年度11月定期評議会にて検討した。現在卒業研究は必修科目としているが、選択科目への変更、担当指導教員の決り方、学生数が4名を超えた場合の課題などについて協議した。結論には至らず、講師以下の先生方、准教授の先生方にそれぞれ協議してもらい、その意見も含めて継続協議とする。 ○ 看護学科：厚生労働省より出されている看護整備推進施設設置指定規則等改正に対応したカリキュラムの見直しを行い、2020年度入学生のカリキュラムに反映させた。 ○ 看護学科：2019年度から新カリキュラムを導入した。 		

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価(のり)	コメント	評価(のり)	コメント	評価(のり)	コメント	評価(のり)	コメント	評価(のり)	コメント	評価(のり)	コメント		
13	学生サポート体制	学生サポート体制	○3学科、学務部 以下の基本方針で、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目指す。 入学前から卒業(国試合格・就職)までの一貫した学生サポート体制の構築。「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り。本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼獲得による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、以下の基本方針で取り組み、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目指す。 入学前から卒業(国試合格・就職)までの一貫した学生サポート体制の構築。「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り、本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼獲得による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、以下の基本方針で取り組み、毎年改善状況を検証し、前年比前年改善を目指す。 入学前から卒業(国試合格・就職)までの一貫した学生サポート体制の構築。「少人数制で面倒見のいい大学」の大学ブランド作り、本学の取組みを情報公開、広報活動に反映、受験者・社会からの信頼獲得による定員充足・学生の質向上・定着率向上 ①入試成績、各学年成績、国試結果、就職までの学修行動追跡調査の結果を分析し学生指導に反映。教職協働体制を整備・確立し、卒業までの各段階で得られる各学生の成績等を統合して把握可能な体制の整備。 ②「学生生活・学修時間・行動」に関する調査の定例化、IR部門による分析による改善。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	○3学科、学務部 引き続き、左記学生サポート体制の継続・検証・改善に関するPDCAサイクルの推進。	
		教育の質の充実を目的とした授業評価アンケートの実施	○3学科、学務部 授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。	○3学科、学務部 引き続き、授業評価アンケートより得られた結果を教員へフィードバックし、個々の改善を推進。 ・学生の要望を把握し対策を講じ、教員間連携を深めるために情報共有体制の強化を実施。
		アドバイザーによる学生の学習意欲等の把握(基礎学力の強化と検証の再掲)	○3学科 学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○3学科 引き続き、学生ニーズ等に関するPDCAサイクルの徹底。
意見箱の活用	○全学 学生ニーズの把握のための意見箱のさらなる活用。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○全学 投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○全学 投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	○全学 引き続き、投函された意見を該当委員会にて検討するとともに成果の検証を実施。	・編入学科：○ ・薬学学科：○ ・看護学科：○	
積極的な課外活動の支援	○学生委員会 部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○	○	○学生委員会 学生委員会年間10回開催し、学生生活、課外活動等学生の原学補導全般に関する議論と協議し、他大学との交流については、活動資金の補助を行った。	○	○	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○	○	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○	○	○学生委員会 引き続き、部活動やサークル活動において、他大学との交流を含めた積極的な課外活動支援の継続強化。	○	○	

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント		
18	教育研究等の質の向上	留年者、退学者対策	○3学科、学務部 退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、現在大学の歩留率は割合79%、卒業率81%、看護88%であり、これらを減少・卒業10%、看護5%を目途として対策を講ずる。 ① 入学前・入学以降の学生支援内容の学内共有化により、退学意向の早期発見・予防支援の学内体制強化。さらに成績・欠席・学費納入情報の共有。 ② 学生相談室と教員の連携推進により、学生相談室の機能を強化し支援学生への早期対応を実施。 ③ 経済困難者への学内授業料免除制度を制定。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	・履次学科 各学年アドバイザーは当該学年の学生の出入をアクティブポータルでチェックし、問題のある学生については学内の共有ファイルに記入及び個別指導を行った。結果は毎月学科会議で学生の動向として報告した。 ・柔道整復学科 学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、成績不良や欠席の多い学生、および大学での学業に不安を抱える学生に対して、早期の対応が可能となり、退学者の減少につながった。 また経済困難者に対する学内授業料免除制度を開始できたことで、退学者対策が十分に行えた。 ・看護学科 アドバイザー・アドバイザーリーダーによる成績不振者、出席不振者への個別対応を行い、ポータルサイトを用いその共有化を推進し、年度途中における成績不振者、出席不振者およびその対応の評価をした。 ・学務部 1) 学生アドバイザーの学生面接を実施。退学・留年の早期予防を図る。 2) 学生相談と教員連携の機会が増加した。学生総合支援室設置の体制整備の準備をした。(規制の制定、改正etc) 3) 経済困難者への授業料免除制度を改正した。 2019年度より運用する。	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	○3学科、学務部 引き続き、退学者の原因分析調査を実施し、学修行動調査との連携で退学要因の分析を行い、対策を実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎ ・学務部：○	
			○3学科 ・低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などの有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上を目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 1. 2年生については、各学年の学生アドバイザーを中心に中間・期末試験の結果を基に、成績不良者について指導を行った。3年生については必要に応じて卒業指導、国家試験ワーキンググループによる補講を行った。4年生に対しては夏休み期間中に含める有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科	○3学科 引き続き、低学力学生の早期スクリーニングシステムの確立。 ・学生相談室(特別支援教室)の確保。研修生・研究生・外部者などによる有効利用。 ・成績不振による留年者を出さないために日頃より継続した学力向上の取組みを目指した補講の実施。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 アラートメールの活用により、早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。 ・柔道整復学科 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎
19	教育研究等の質の向上	退学者の改善	○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 アラートメールの活用により、早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。 ・柔道整復学科 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎		
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 アラートメールの活用により、早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。 ・柔道整復学科 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎		
20	出欠管理の徹底	出欠管理の徹底	○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 アラートメールの活用により、早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。 ・柔道整復学科 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎		
			○3学科 アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 アラートメールの活用により、早期に欠席の多い学生を見つけた。各学年を担当する学生アドバイザーを中心に学生を指導し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。 ・柔道整復学科 アラートメールの活用したことで、出席不良者(欠席の合計が10回以上/2週間)を早期かつ容易に把握することが可能となった。そのためアドバイザーによる個別指導および教員間での情報共有も早期に行うことができた。 ・看護学科 出席不良学生へのアドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー・学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎	○3学科 引き続き、アラートメールを活用し、出席不良学生への早期アプローチによる退学者の未然防止。	・履次学科：○ ・卒業学科：○ ・看護学科：◎		

PDCAサイクル表(中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度	実績結果	2019年度	実績結果	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
				評価項目		コメント					評価項目
21		アドバイザーによる成績不適合等指導者に対する継続指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 	<p>1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不適合者に対しては学生面談、更に必要があれば保護者面談を実施した。</p> <p>4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の結果を保護者に面告(成績のレベルにより面告の内容が異なる)にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。</p> <p>アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学例会議時に学生の動向(気になる学生)の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。</p> <p>・看護学科</p> <p>アドバイザー、アドバイザーによる成績不適合者への個別対応の充実。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 	<p>1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不適合者に対しては必要に応じて保護者面談を実施した。</p> <p>4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の結果を保護者に面告(成績のレベルにより面告の内容が異なる)にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。</p> <p>アラートメールの活用、教員間での成績の共有、学例会議時に学生の動向(気になる学生)の報告を行うことで、早期にアドバイザーが指導を行うことができた。</p> <p>・看護学科</p> <p>アドバイザーによる指導を徹底。指導については、アドバイザー-学年リーダーの教員が状況を把握し、必要時、アドバイザーへの助言を行った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 学生の現状把握ときめ細かい指導環境の充実を図り、退学率0%を目指し、アドバイザー制度の徹底およびPDCAサイクルの実施。
			<p>学生支援室(特別支援教室)設置および支援室への大学院生・研究生・卒業生などの有効利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 ○学務部 	<p>学生相談室との連携により学生の支援をよりきめ細かに行なった。</p> <p>・薬学学科</p> <p>学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生でなく大学の生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを行う体制が整った。</p> <p>・看護学科</p> <p>必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を行った。</p> <p>・学務部</p> <p>学生総合支援室設置準備は2018年に出来た。2019年度から運用開始する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 ○学務部 	<p>学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。</p> <p>・保健学科</p> <p>学内に設置されている学生総合支援室と密に連携を取ることで、大学院生でなく大学の生活に不安を抱える学生に対して早期にアプローチを実施した。</p> <p>・看護学科</p> <p>必要時、カウンセラー・学生課と連携し、学生への対応を行う体制を整え、学生の支援を行った。</p> <p>・学務部</p> <p>学生総合支援室を設置した。</p> <p>大学院生によるT.A制度を活用し、学部指導補助。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科、学務部 学生相談室(特別支援教室)の設置による研究生・研究生・外部者などの有効利用開始。
23	教育研究等の質の向上	経済的側面に対する支援制度の継続実施	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部 	<p>○財務部、学務部</p> <p>授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部 ○学務部 	<p>○財務部、学務部</p> <p>授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。</p> <p>(追加)</p> <p>申請数の動向を見つつ、対象者を拡大するか検討する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○財務部、学務部 授業料減免制度など、経済的困難者に向けた支援制度の継続実施。
			<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 退学者の未然防止のため、保護者への成績表の送達および、必要に応じて、保護者面談を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 	<p>1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不適合者に対しては必要に応じて保護者面談を実施した。</p> <p>4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の結果を保護者に面告(成績のレベルにより面告の内容が異なる)にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。</p> <p>・薬学学科</p> <p>各学期の終了後(年間2回)、保護者へ成績表の送達を行った。また成績不適合者に対してアドバイザーと保護者を含めた3者面談を実施し、退学者の改善に努めた。</p> <p>・看護学科</p> <p>必要時、保護者面談を実施し、就学継続を確認し、保護者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 ○薬学学科 ○看護学科 	<p>1,2,3年生については各学期の終了後、学生アドバイザーが担当学年の成績を確認し、成績不適合者に対しては必要に応じて保護者面談を実施した。</p> <p>4年生については夏休み前に、それまでの総合実力試験の結果を保護者に面告(成績のレベルにより面告の内容が異なる)にて連絡し、必要に応じて、あるいは希望者に対し保護者面談を行った。</p> <p>・薬学学科</p> <p>各学期の終了後(年間2回)、保護者へ成績表の送達を行った。また成績不適合者に対してアドバイザーと保護者を含めた3者面談を実施し、退学者の改善に努めた。</p> <p>・看護学科</p> <p>必要時、保護者面談を実施し、就学継続を確認し、保護者と連携して学生の支援を行った。就学継続が困難なケースについて、理由を明確にし、入学者選抜試験を検討する際の資料とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の送達および、必要時、保護者面談を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の送達および、必要時、保護者面談を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の送達および、必要時、保護者面談を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○3学科 引き続き、退学者の未然防止のため、保護者への成績表の送達および、必要時、保護者面談を実施。
25	入学時点におけるミスマッチの防止	指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びつけた。	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者増加に結びつけた。 		<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 引き続き、指定校推薦入試の枠を増やした。
			<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やすことで、指定校からの入学者の評価。 		<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○看護学科 指定校推薦入試の枠を増やした。
27	学務システムの改善と有効活用	情報センター	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムや経済状況、進学時間など学務システムを可視化する学務システムの有効活用のための検討を開始。 		<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムを有効活用について取り組みを着手。学務システムのバージョンアップ(予定)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムのバージョンアップを予定通り完了した。国家試験、資格試験の管理を行うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムの有効活用を推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムの活用状況を検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムの活用状況を検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムの活用状況を検証。 	<ul style="list-style-type: none"> ○情報センター 学務システムの活用状況を検証。
			<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 		<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 大学假期中の鍼灸センターでの鍼灸体験施設の実施(10月27, 28日)、ミライガク2018(16月9日)、有明5年3学期対抗運動会(7月8日)、有明祭り(10月13日)、古石塚文化センターまつり(10月14日)、豊洲フェスタ(10月27, 28日)、大学祭(10月27, 28日)、スポーツ学科学フェスティバル(2月9日)での鍼灸ブースの出店。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○保健学科 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。
28	地域連携の構築	鍼灸治療・健康相談等実施(所属鍼灸センター)	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 		<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 大学假期中の鍼灸センターでの鍼灸体験施設の実施(10月27, 28日)、ミライガク2018(16月9日)、有明5年3学期対抗運動会(7月8日)、有明祭り(10月13日)、古石塚文化センターまつり(10月14日)、豊洲フェスタ(10月27, 28日)、大学祭(10月27, 28日)、スポーツ学科学フェスティバル(2月9日)での鍼灸ブースの出店。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 大学假期中の鍼灸センターでの鍼灸体験施設の実施(10月27, 28日)、有明祭り(9月7日)、豊洲フェスタ(10月26, 27日)、NFCサイエンススタジアム2019(12月7, 8日)、スポーツ医学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店。一歩のゆめ仲間主催「一歩のゆめフェスタ2019」第2回ふんふんマッシャー対抗コンテスト」の開催協力(9月21日)。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍼灸治療 引き続き、鍼灸治療や健康相談等による地域協力推進。

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		実施結果		2019年度		実施結果		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度					
			評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント	評価 (A, B, C, D, E)	コメント				
40	教育研究等の質の向上	国際交流推進	◎	○学務部 国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制） ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学推進支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	1) 学生支援課の海外留学支援制度（協定派遣・受入）に派遣支援学科、看護学科から各2件応募し、協定派遣で各学科1件、合計2件採択された。 2) シンガポール研修実施（看護）派遣（3月）と受け入れ（7月）。 3) イリノイ大学と大学間協定締結。 4) チャールズ・スタート大学看護学部と交流覚書調印。 5) モンゴル国立医療科学大学学長他来学・同大学から短期留学生導入、本学鍼灸学科教員がモンゴル国立医療科学大学で講演・実技指導。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続している。 モンゴル伝統医療学校4年生（17名）が実習に来日した。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。	◎	○学務部 引き続き、国際交流センター支援体制の強化（実務スタッフの配置・補助金獲得体制）を継続。 ○大学間交流協定に基づく交流の活性化（派遣と受入） ⇒ 具体的な案件対応を踏まえて、支援体制を毎年段階的に整備強化していく。 ①学生間の交流推進 学部・大学院留学派遣支援。 ②教員間（研究者）の研究者交流、共同研究推進、派遣支援体制の強化。		
		MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学への教員派遣と学生研修	◎	○鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし、MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	2019年度ポストドクター研修に向け準備をした。	◎	○鍼灸学科 教育の質の向上を目的とし、MOPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	1) 2019年度ポストドクター研修を2019年6月4日～11日に実施し39名（本学鍼灸学科学生27名と大学院生3名、日本鍼灸理療専門学校生9名）が参加した。Massachusetts College of Pharmacy and Health Sciences (MCPHS大学：マサチューセッツ薬科健康科学大学)での国際交流センターによる講義、Harvard Medical School においてのTed Kaplan教授の講義、MGH/HST Marina Center for Biomedical ImagingでのJan Kongzong教授の講義、イリノイ大学Judith Schlaeger准教授の講義、NESAの日本鍼部部長Diane先生の講義などを受けた。そのほかマサチューセッツ総合総合病院、MIT博物館、ボストン美術館などの見学も行った。 2) 学外実習の中で、東京大学附属病院リハビリテーション科、埼玉医科大学病院東洋医学科において大学病院での鍼灸治療やチーム医療の実践について研修を行った（9月2、3日）。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。	◎	○鍼灸学科 引き続き、教育の質の向上を目的とし、MCPHS大学、ハーバード大学、イリノイ州立大学へ教員派遣と学生研修。		
		シンガポール国立大学看護学部	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	2018年度学生受け入れ（2018年7月10名）、派遣実施（2018年3月3名）。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	2019年度学生受け入れ（2019年7月10名）、派遣は新型コロナウイルス感染症のため中止。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。 （追加）世界的な新型コロナウイルス感染症の感染状況を見て計画変更または実施。JASSO協定派遣は2020年度実施予定。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 引き続き、学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
		オーストラリアCharles Sturt大学	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の準備開始。	◎	学生派遣、受け入れに向けた準備継続	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	学生派遣、受け入れに向けた準備継続	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。	◎	○看護学科 学生派遣・受け入れ及び教員間の研究・交流の推進。		
		モンゴル国立医療科学大学	◎	○派遣支援学科 これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	モンゴル国立医療科学大学への教員派遣を行った。2018年度は8名の教員が派遣され、5月と9月の約2カ月の講義、実習を行った。またモンゴル国立医療科学大学より、3年生の女子学生の短期留学（約5カ月）の受け入れを行った。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。	◎	○派遣支援学科 引き続き、これまで派遣支援学教育のために実施してきた教員派遣を継続し、さらなる国際交流を推進。 ○留学生受け入れなどによる大学間連携のさらなる強化を実施。
		麗仁大学校（韓国）	◎	○派遣支援学科 これまで派遣（派遣・龍武）を通じた連携を実施。学園卒業生（派遣支援部）が韓国派遣チームのコーチを行うことも決まっており、派遣を通じた大学間連携の継続推進。	◎	龍武派遣を通じて、韓国・麗仁大学校と交流を行った。2016年に開催された龍武派遣の世界大会では6名の女子学生が参加し、3名が上位入賞を果たした実績がある。2019年に開催される世界大会にも出場予定であり、その準備を行った。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。	◎	○派遣支援学科 引き続き、派遣（派遣・龍武）を通じた大学間連携の継続推進。
		国家試験結果の公表	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表を開始。	◎	○事務局 過去に実施された国家試験結果（2017・2018年度）はHPに公表している。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。
46	教育成果の見える化	国家試験結果の公表	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表を開始。	◎	○事務局 過去に実施された国家試験結果（2017・2018年度）はHPに公表している。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 引き続き、HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。	◎	○事務局 HP等での国家試験結果の公表。		
47		学生研究成果の公表	△	○鍼灸学科 学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	卒業研究を冊子にして図書館にて公開したが、学部生の全日本鍼灸学会での研究発表は実施できなかった。（学生の状況などにより毎年の発表は難しいと思われる。）来年度は学部生の全日本鍼灸学会での研究発表を目指す。HPでの公開についても検討を実施する。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	卒業研究を冊子にして図書館にて公開したが、学部生の全日本鍼灸学会での研究発表は実施できなかった。（学生の状況などにより毎年の発表は難しいと思われる。）来年度は学部生の全日本鍼灸学会での研究発表を目指す。HPでの公開についても検討を実施する。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。	△	○鍼灸学科 引き続き、学生の研究成果の学会発表、HP等での公開。		

PDCAサイクル表 (中長期計画・2018~2023年度分)

大項目	中項目	小項目	2018年度	実施結果	2019年度	実施結果	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度		
			評価の観点	コメント	評価の観点	コメント	評価の観点	コメント	評価の観点	コメント	評価の観点	コメント
54	研究の質の向上	研究体制の充実	○3学科 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	・鍼灸学科：○ ・薬学：○ ・看護学科：○ ○鍼灸学科 学部の定員が充足されており、学科共同研究による機材の購入は差し控えた。学科教員の研究内容は多岐にわたり、また国内、国際的な共同研究の推進を図った。 ・柔道整復学科 教員、大学院生、学部生ともに、学内で所有している実験器具を使用し、関連学会、特に日本柔道整復療育学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ・看護学科 学科共同研究による萌芽的研究の助成を行った。	○3学科 引き継ぎ。 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	・鍼灸学科：○ ・薬学：○ ・看護学科：○ ○鍼灸学科 学部の定員が確保されているが、学科共同研究による機材の購入は差し控えた。学科教員の研究内容は多岐にわたり、また国内、国際的な共同研究の推進を図った。本年度は、各学科の研究員が個人研究費申請補助金の範囲内で研究を進めた。本年度独自の学科別研究費と学科共同研究費C1件を獲得した。 ・柔道整復学科 教員、大学院生、学部生ともに、学内で所有している実験器具を使用し、関連学会、特に日本柔道整復療育学会学術大会において積極的に成果報告を行った。 ・看護学科 学科共同研究による萌芽的研究の助成を行った。	○3学科 引き継ぎ。 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	○3学科 引き継ぎ。 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	○3学科 引き継ぎ。 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。	○3学科 引き継ぎ。 ・実験機種の充実。 ・多様な領域での基礎、臨床研究及び学際研究の可能な体制強化と研究。		
		・附属鍼灸センターにおける臨床研究(LEM)強化 ・研究成果の公表	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。	○鍼灸学科 ○附属鍼灸センターの研究施設としての機能強化。(再掲) ・HP等での教員、大学院生、研究生、研修生の研究成果の公開。
		研究及び学会活動	○3学科 各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	○鍼灸学科：○ ○薬学：○ ○看護学科：○ ○鍼灸学科 本年度鍼灸学科からは3件の新規申請を行った。3年後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行った。 ・柔道整復学科 2018年9月26日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の35名に対し、倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ・看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生については、その講義をもとに研究倫理を遵守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	○3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	○鍼灸学科：○ ○薬学：○ ○看護学科：○ ○鍼灸学科 本年度鍼灸学科からは4件の科研究新規申請を行った。3年生後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行った。講義終了後、理解度試験を行い、その成績を基に推薦書を提出した。 ・柔道整復学科 2019年9月25日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の35名に対し、倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ・看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生については、その講義をもとに研究倫理を遵守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	○3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	○鍼灸学科：○ ○薬学：○ ○看護学科：○ ○鍼灸学科 本年度鍼灸学科からは4件の科研究新規申請を行った。3年生後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行った。講義終了後、理解度試験を行い、その成績を基に推薦書を提出した。 ・柔道整復学科 2019年9月25日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の35名に対し、倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ・看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生については、その講義をもとに研究倫理を遵守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	○3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	○鍼灸学科：○ ○薬学：○ ○看護学科：○ ○鍼灸学科 本年度鍼灸学科からは4件の科研究新規申請を行った。3年生後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行った。講義終了後、理解度試験を行い、その成績を基に推薦書を提出した。 ・柔道整復学科 2019年9月25日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の35名に対し、倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ・看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生については、その講義をもとに研究倫理を遵守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。	○3学科 引き続き、各専門分野における研究の実施を推進し、引き続き、倫理教育の徹底による不正防止体制を堅持。	○鍼灸学科：○ ○薬学：○ ○看護学科：○ ○鍼灸学科 本年度鍼灸学科からは4件の科研究新規申請を行った。3年生後期から始まる卒業研究において研究倫理に関する講義を行った。講義終了後、理解度試験を行い、その成績を基に推薦書を提出した。 ・柔道整復学科 2019年9月25日に、卒業研究を開始する柔道整復学科3年生の35名に対し、倫理教育を行った。また倫理教育後のフォローアップとして、各学生に対して、指導教員が研究倫理教育を行っている。 ・看護学科 3年生を対象に、担当教員が看護研究に係る研究倫理について講義を行った(9月)。また、4年生については、その講義をもとに研究倫理を遵守して看護研究を行うよう各担当教員が指導した。
57	大学院生の将来設計	博士前期課程	○保健医療学研究科 各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	○保健医療学研究科 ○学務部：△ ○保健医療学研究科 大学院の修了生に対しては、主に指導教員が希望進路および就職・進学先を把握し、研究活動とともに指導を行っている。 ・学務部 卒業後研究生として残るものもいた。(2018年度実績：就業2名、研究生1名、就職準備2名)	○保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実させるとともに、修了生の就職・進学状況の現状把握を実施する。	○保健医療学研究科 ○学務部：○ ○保健医療学研究科 大学院の修了生に対しては、主に指導教員が希望進路および就職・進学先を把握し、研究活動とともに指導を行っている。	○保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。 (追加) 特に就業を希望する院生に対しては、新型コロナウイルスの影響により厳しくなることが予想されるため、研究科長、指導教員、事務局が連携して対応していく。	○保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	○保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。	○保健医療学研究科 引き続き、各分野で活躍できる人材育成のための教育内容を充実するために、修了生の就職実績を再検討及び現状把握を実施。		
		博士後期課程	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 ○学務部：○ ○保健医療学研究科 教育職で活躍できる人材育成には課題があり、今後見直しが必要である。 ・学務部 2018年度大学院博士後期課程卒業生を本学の専任教員(助手)に採用(2019年度より)	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 ○学務部：○ ○保健医療学研究科 教育職で活躍できる人材育成には課題があり、今後見直しが必要である。	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	○保健医療学研究科 引き続き、将来、専門分野での教育職および研究職で活躍できる人材育成を図るための教育体制強化。	
59	財政基盤の安定	入学者数の確保 定員、学費、資格(あん摩マッサージ指圧師)、広報関連	○鍼灸学科 専門職大学院との差別化について比較検討を実施。	○ 平成30年度(11月)学科会議において専門職大学院との差別化について検討した。差別化するために本研究を充実させる。研究成果を大学のセールスポイントにできるようにする。	○鍼灸学科 引き続き、専門職大学院との差別化について比較検討を実施。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。		
			○鍼灸学科 定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○ 平成30年度11月学科会議において、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討した。平成31年度は入学生がほぼ定員近くまで集まったので、当面は現在の形でさらに広報活動に注力することとした。	○鍼灸学科 引き続き、定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	
60	入学者数の確保	○鍼灸学科 定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○ 平成30年度11月学科会議において、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討した。平成31年度は入学生がほぼ定員近くまで集まったので、当面は現在の形でさらに広報活動に注力することとした。	○鍼灸学科 引き続き、定員充足を目的とした、ダブルライセンス、学科内コース(スポーツ鍼灸、美容鍼灸、一般鍼灸コース)、あん摩マッサージ指圧師コース等の検討	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。	○鍼灸学科 検討結果に応じ、対策を講じる。			

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
			評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント	評価 (◎, ○, △, ×)	実施結果 コメント
財政基盤の安定	外部資金の獲得	科研費の積極的確保	×	○公的研究支援室 採択数の増加を目指す場合、 不十分な結果に終わってしまった。また、科研費の応募者数も増加している。そのため、科研費研修において、科研費応募要領に精通した講師を招聘してセミナーを実施する。	○公的研究支援室 昨年の反省も踏まえ、外部の 院の高い教育の実施したものの 不十分な結果に終わってしまった。また、科研費の応募者数も増加している。	○公的研究支援室 外部講師の招聘、及び科研費獲得を目的とした外部 セミナーへの参加しての情報提供、更に文科省以外 の院の高い教育の実施したものの情報提供等積極的 に行った。文科省科研費の採択は2名であったが、 NEDOや厚労科研費等文科省以外の科研費獲得は増加 している。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。	○公的研究支援室 申請状況の検証 (追加) 新たな若い研究者も 増えている中、一問一答しての 研修等を実施する等を見直す 必要がある。現在の社会情勢 も踏まえ、若い研究者を中心 に勉強会を複数実施する等 の方法により情報提供を認 めていく。		
		科研費等研究助成事業	○	○3学科 科研費等研究助成事業へのさら なる積極的な応募。	・鍼灸学科：○ ・柔道整復学科：○ ・看護学科：○ ・鍼灸学科 鍼灸学科からは3件の新規申請を行い、うち1件が採 択された。 ・柔道整復学科 各専門分野の教員が共同研究という形で、競争的資 金の獲得のために積極的に応募している。 ・看護学科 科学研究費等研究助成は一定数あった。ただし、そ 他の研究助成へのトライアルは少なかった。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 募。	・鍼灸学科：○ ・柔道整復学科：○ ・看護学科：○ ・鍼灸学科 鍼灸学科からは4件の新規申請を行い、うち1件（基 盤研究C）が採択された。基礎科学研究は高層研究Cが 3件、若手研究員が1件で、鍼灸学科として合計5件の科 研費研究が進行中である。10月、11月の両月学科教 員全てを対象としたオンラインセミナーを実施するための 方法について検討した。学科共同研究などをうまく 運用してはどうかなど様々な意見が出たが結論に は至らず継続審議とすることとした。 ・柔道整復学科 各専門分野の教員が共同研究という形で、競争的資 金の獲得のために積極的に応募している。 ・看護学科 科学研究費等研究助成は一定数あった。ただし、そ 他の研究助成へのトライアルは少なかった。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 募。	○3学科 引き続き、科研費等研究助成 事業へのさらなる積極的な応 募。			
		経常費補助金の増加	○	○財務部、学務部 特別補助金について、取り組 むものから積極的に実施して いくための事業のピックアップ を実施。	・財務部：◎ ・学務部：◎ ・財務部 東京有明医療大学授業料免除等規則の改正を行い、 経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者 も授業料免除の対象者に拡大したことから、新たに 特別補助の対象となる。 ・学務部 特別補助を受けるため、厳格検討を行った。しか し、結果的には申請の基準点数に達しなかったた め、申請を断念した。	○財務部、学務部 授業料において学業成績優秀 者に加え、経済的困難者を対 象とすることによる補助金拡 大への取組実施。	・財務部：◎ ・学務部：◎ ・財務部 東京有明医療大学授業料免除等規則の改正を行い、 経済的理由(家計急変を含む)による授業料納入困難者 も授業料免除の対象者に拡大したことから新たな特 別補助を獲得できた。 ・学務部 学業成績優秀者制度を見直し、経済困難者の授業料 減免制度の内容を充実させた。	○財務部、学務部 学内ワークスタディ事業につ いて実施できないかの検討実 施。 (追加) 中途退学者の減少による定員 充足率の上昇に伴う補助金の 増減率を向上させる。	○財務部、学務部 学内ワークスタディ事業の実 施。	○財務部、学務部 取組可能事項の検討。				
		外部資金のデータベース整理	○	○3学科 外部資金のデータベース整 理、および、外部資金獲得の ため、若手教員に対して申請 書類作成指導を実施。	○3学科 外部資金（競争的資金）の獲得のために、財務部主 権の科研費公募要領説明会（採択経験者の報告を含 む）に積極的に参加した（9/27開催）。 また若手研究者の作成した科研費申請書類に対し て、学科内の教授により指導が行われた。	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	・鍼灸学科：○ ・柔道整復学科：○ ・看護学科：○ ・鍼灸学科 外部資金（競争的資金）の獲得のために、財務部主 権の科研費公募要領説明会（採択経験者の報告を含 む）に積極的に参加した（9/18開催）。 また若手研究者の作成した科研費申請書類に対し て、学科内の教授により指導が行われた。 ・看護学科 外部資金（競争的資金）の獲得のために、財務部主 権の科研費公募要領説明会（採択経験者の報告を含 む）に積極的に参加した。 また若手研究者の作成した科研費申請書類に対し て、学科内の教授により指導が行われた。	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。	○3学科 引き続き、外部資金のデータ ベース整理。および、外部資 金獲得のため、若手教員に対 して申請書類作成指導を実 施。			
		学内特別研究費	○	○3学科 申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。	・鍼灸学科：○ ・柔道整復学科：◎ ・看護学科：○ ・鍼灸学科 申請書の作成に当たり必要に応じて相互協力または 指導をし、2名の教員が学内特別研究費を申請し両 申請とも採択された。 ・柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し、4名 （うち1名は教育改革推進費）が採択された。 ・看護学科 特別研究費への応募を行った。	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。	・鍼灸学科：○ ・柔道整復学科：◎ ・看護学科：○ ・鍼灸学科 申請書の作成に当たり必要に応じて相互協力または 指導をし、1名の若手教員が科研費基金研究C、2名 の教員が学内特別研究費を申請した。 ・柔道整復学科 特別研究費の募集に対して、積極的に応募し4名（新 規2名・継続2名）が採択された。 ・看護学科 特別研究費への応募を行った。	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。	○3学科 引き続き、申請書作成相互協力。 ・学内特別研究費の有効な運 用。			
		教員研究の推進のための 学内共同研究費による 萌芽的研究助成	○	○看護学科 学内共同研究費による萌芽的 研究助成	○看護学科 2件の研究を採択し、学内共同研究費の配分によ り、研究助成を行った。	○看護学科 引き続き、学内共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○看護学科 3件の研究を採択し、学内共同研究費の配分によ り、研究助成を行った。	○看護学科 引き続き、学内共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学内共同研究費に よる萌芽的研究助成。	○看護学科 引き続き、学内共同研究費に よる萌芽的研究助成。				
人員費の抑制	教員	人員費の抑制	○	○3学科 採薬数/週に基づく教員の再構 成。	・鍼灸学科：× ・柔道整復学科：○ ・看護学科：◎ ・鍼灸学科 本年度は再構成に至らなかった。 ・柔道整復学科 本年度は再構成に至らなかったが、次年度より、実 技科目に関しては、補助教員によるサポートを行う 体制をとる。 ・看護学科 採薬数/週に基づく教員の再構成を行った。	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づ く教員の再構成。 (柔道整復学科追加) 実技科 目に関しては、補助教員によ るサポートを行う。	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づ く教員の再構成。	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づ く教員の再構成。	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づ く教員の再構成。	○3学科 引き続き、採薬数/週に基づ く教員の再構成。				
		学生確保の動向の確認	○	○法人本部 令和2年までの3年間、学生 確保の動向を見極める。	○学生確保の動向の確認した。	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。	○法人本部 令和2年までの3 年間、学生確保の動向を見極 める。				

PDCAサイクル表（中長期計画・2018~2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
			評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント	評価(○,△,×)	実施結果 コメント
77	財政基盤の安定	購入単価の見直し		○医歯歯学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター、大口取引業者の選定、各学部、各部門とのヒアリング、他の業者への見直しの実施。	○鍼灸学科 物品の購入単価について見直しが少なく、購入単価の見直しによる大幅な経費削減は困難であるため消耗品の使用を節約するよう周知した。また、附属鍼灸センターの施術料金の値上げによる増収について検討し、2019年4月より500円の値上げを実施することとした。 ○柔道整復学科 柔道整復学科の実技で使用する材料に関しては、必ず2柱以上の見積書を取ることとした。また年度末には大学の財務部主導のもと、実技材料の調卸を行うことで、未使用な材料を極力削減することができた。 ○看護学科 財務部の指導に基づき、必要時に相見取りを取る等実施した。 ○財務部 大口取引業者の選定は抽出できたが、当該業者との価格交渉は実施できなかった。また、各部門との購入物品についても実施できなかった。	○3学部、財務部 ・ヒアリングの結果、業者変更の有利、新入品目の変更の有無を確認のうえ、業者との価格交渉をする。 〔財務部追加〕 相見取りを取るのと同時に、各部門とのヒアリングを実施する。	○鍼灸学科 ○看護学科 ○財務部 ○△	○鍼灸学科 標準で使用する物品について可能な限り節約するよう努めた。附属鍼灸センターの消耗料金を500円値上げにて増収を図った。 ○柔道整復学科 柔道整復学科の実技で使用する材料に関しては、必ず2柱以上の見積書を取ることをし、また年度末には大学の財務部主導のもと、実技材料の調卸を行うことで、未使用な材料を極力削減することができた。 ○看護学科 財務部の指導に基づき、必要時に相見取りを取る等実施した。 ○財務部 教団との価格交渉は実施したが、実績は伴わなかった。また、各部門とのヒアリングも実施できなかった。	○医歯歯学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・業者の選定、価格交渉。	○医歯歯学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・業者の選定、価格交渉。	○医歯歯学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。	○医歯歯学部、看護学部、総務部、財務部、学務部、附属クリニック、附属鍼灸センター、附属接骨センター ・検証。		
		一般管理費の削減	△	○財務部 一般管理費における契約内容等の見直しを実施。また、経費削減計画の策定。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。 〔追加〕 施設・設備については、既存の業者をリベンジし、複数業者から見積りを依頼し、品質等を併せて業者を選定する。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 光熱費について、Ematから九州みらいエナジーへの切替を図り契約単価の減少を図ることができた。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。	○財務部 削減計画に基づき、一般管理費の削減推進。
78	ガバナンスの強化	一般管理費の契約見直し及び経費削減の実施、中期計画期間の最終年度までの目標一般管理費率5%削減	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。	○	○法人本部 現預金の活用にあたっては、安全性に留意し有利な条件での運用を実施。
		運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。	○	○法人本部 運用規定の見直しを中心として、①運用金額の上限の設定、②リスク分散による投資、③商品単位での評価並びにもとめる評価項目の共通化等、等々具体策を検討した。
79	ガバナンスの強化	現預金の確保と活用	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。
		IR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。
80	ガバナンスの強化	IR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。
		IR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。	○	○IR委員会 前年度設置されたIR委員会を活用し、IR委員会が関係部と連携の上、データ収集、分析、可視化を行い、学長の意思決定を支援。
81	業務運営の改善	内部統制の強化	△	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)	○	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)	○	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)	○	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)	○	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)	○	○財務部 全教職員に対し、研究費獲得前、獲得後の研究実施、研究費配分後の収支管理に区分して研修を実施する。更にそれぞれのテーマにおいて当該年度における重点課題を相互共有することで、学全学的な不正防止策を目指す。(当年度は獲得前の研究不正を重点課題とする。)
		学外研究における委員会や内部監査の定期的実施や全教職員は、内部統制において十分機能している。今後も研究不正に対する研究実施者及びチェック者のレベルアップを図りながら不正防止を継続していく。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。	○	○財務部 学外研究・学外研究を問わず、日々の金銭処理を通じ、金銭上の不正項目を発生するようないずれかの関係者で共有研修、その上で学内周知し、不正防止を目指す。
82	業務運営の改善	業務局	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。
		監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。	○	○事務局 監事との意思疎通を定期的に行い、必要情報を速やかに提供するなど監事の職務遂行を支援。監査結果や意見によっては、学内で共有化するとともに、大学業務の適正化や効率化のために速やかに改善策を実施。
83	戦略的な広報体制の確立	国家試験結果、学生の進路、大イベントの公表	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。
		アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。	○	○アドミッションセンター 国家試験結果・学生の進路・大イベント等の公表。
84	戦略的な広報体制の確立	教員の活動に関する公表	○	○アドミッションセンター 教員の研究分野に関する公表は、本人にリサーチマップ(運営元：科学技術振興機構)に入力してもらい公開している。加えて、看護学研究科では各研究領域の紹介を併せて実施している。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。
		アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。	○	○アドミッションセンター 教員の活動に関する公表。

PDCAサイクル表（中長期計画・2018～2023年度分）

大項目	中項目	小項目	2018年度		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度			
			評価 (○, △, ×)	コメント	評価 (○, △, ×)	コメント	評価 (○, △, ×)	コメント	評価 (○, △, ×)	コメント	評価 (○, △, ×)	コメント	評価 (○, △, ×)	コメント		
99	キャンパスの総合整備	学外への業務データ保管・二重化	○		○	情報センター 二重化技術の移行。	○	学内ファイルサーバにおける個人情報・業務情報の二重化を行い、災害時の情報資産の安全性を図る。Microsoft Azure Backup, Disk to Disk to Tape Backupの実現方法を学習した。	○	情報センター 業者と費用の調査開始。	○	情報センター 設計を確定、施工業者を決め着手。	○	情報センター 業務データの二重化を完成。		
		研究環境の整備	○		○		○	昨年引き続き検討したが、施設的な制約もあるため実施困難であると判断し、サークル活動の活性化支援に重点を置く方向で今後検討していくこととした。	○	学生委員会 サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
		課外活動団体の部室確保	○		○	学生委員会 大学の施設管理には予算上、実施上の制約があるため、まずは学内の要望を整理し実現可能性、実施可能性の高いものから順次取り組んでゆく。	○		○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。	○	学生委員会 引き続き、サークル活動の活性化支援について検討。		
		ネットワーク関係の整備	○		○	調査・検討を行い、整備に必要な予算申請を行った。しかし、2019年度予算にのみ認められなかったため、そのための計画を白紙に直し、2020年度以降に整備を行う計画で再度検討を計画し直さなければならない。	○	情報センター 無線・有線LANの整備に関する調査、検討を継続。	○	情報センター 2020年度中に基幹ネットワークを更新する具体的な作業を策定し、予算申請を行った。	○	情報センター 現在接続している有線LAN(SINET5)が終了する年度、次期SINETへの円滑な移行を実施。対外接続用のルータ・ファイアウォールの次期の仕様を確定。	○	情報センター 次期SINETへの移行および対外接続用のルータ・ファイアウォールの更新を完了。		
		103	社会貢献・文化活動の推進	附属鍼灸センター	○		○	日常の鍼灸センターによる外来診療とともに、中高生を対象とした治療体験、大学祭や地域の運動会(7月8日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(10月14日)、豊洲フェスティバル(10月27、28日)などのイベントにおいて治療体験や健康相談を附属鍼灸センター担当教員を中心に行った。	○	日常の鍼灸センターによる外来診療とともに、中高生を対象とした治療体験、大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などにおいて治療体験や健康相談を附属鍼灸センター担当教員を中心に行った。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	都府県国際病院等の医療機関と患者の相互依頼を行った。	○	聖路加国際病院等、東邦大学大塚病院等の医療機関と患者の相互依頼を行った。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
				附属鍼灸センター	○		○	大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。	○	大学祭(11月3、4日)、有明祭(10月13日)、古石塚文化センターまつり(9月7日)、豊洲フェスティバル(10月26、27日)NHKサイエンススタジアム2019(12月7、8日)、スポーツ医科学フェスティバル(2月16日)での鍼灸ブースの出店、などの大学内や地域のイベントにおいて治療体験とともに鍼灸に関する情報を発信し啓蒙活動を行った。一時的なため計画主催の「一柱のゆめフェスタ2019 第2回あん摩マッサージ指圧コンテスト」に鍼灸センター担当教員、研修生等が中心となり協力するとともに本学を会場として開催し地域住民に手技療法の啓蒙・普及を行った(9月21日)。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。	○	附属鍼灸センター 引き続き、研究・附属鍼灸センター-来院患者等に関連した医療機関との連携。
		106	市民公開講座の開催	○		○	更新についての検討を行ったが、まだ具体的な計画の策定には至っていない。	○	看護学科 近隣住民を対象に、健康教室を開催した。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	○	看護学科 引き続き、市民公開講座の開催。	
107	附属検査センターの充実	○		○	派遣調整師の資格を持つ教員および大学院生が患者の臨検に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	派遣調整師の資格を持つ教員および大学院生が患者の臨検に当たっている。また施術所内における各治療スペースは、パソコンで隔てており、患者のプライバシー保護に十分配慮している。	○	附属検査センター 引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。	○	附属検査センター 引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。	○	附属検査センター 引き続き、患者が安心して来院できる様、新たな人材の登用。			
108	サーバの整備	○		○	情報センター 学術施設ファイルシステム用のサーバのライセンス契約が終了のため移行を実施。	○	情報センター ライセンス契約の延長が認められたため、移行をせずに契約を延長した。	○	情報センター 監査機能、ファイルサーバの更新の検討を開始。	○	情報センター 監査機能、ファイルサーバの更新に着手。	○	情報センター 監査機能、ファイルサーバの更新を完了。			
109	職員の業務用PCの整備	○		○	情報センター Windows7のサポート終了に備え学内すべてのWindowsマシンをWindows10に移行。	○	情報センター すべてのWindowsマシンをWindows10に移行した。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。	○	情報センター 引き続き、Windows10のサポート終了時期及び次期Windowsに関する調査実施。			
110	コンピュータ教室	○		○	情報センター 2019年度予算を確保し、メーカー仕様・見積り業者等を決めた。	○	情報センター 7台の入れ替えは終了した。学習には好評で利用者が増えた。	○	情報センター プロジェクトで使用しているプロジェクトの入れ替えを検討。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。	○	情報センター プロジェクトの入れ替えを実施。			
111	セキュリティ対策	○		○	情報センター セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起、教育し、システム整備を実施。	○	情報センター サイバー攻撃について情報収集は十分できた。通訳講習の方法とスマートフォンでの注意喚起について、調査検討する必要がある。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起、教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起、教育し、システム整備を実施。	○	情報センター 引き続き、セキュリティ関連情報を収集し、教職員学生に注意喚起、教育し、システム整備を実施。			
112	安全衛生管理	○		○	衛生委員会 職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会において調査、検討を実施。必要に応じて内容を見直し改善していく。	○	衛生委員会 ストレスチェックの実行結果において、職場環境改善を目的とした調査会の開催を計画した。 職場巡回を終了することで職場環境の改善に関する意識が向上した。次年度、職場巡回計画、職場巡回チェックリストの見直しが必要と考えられる。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。	○	衛生委員会 引き続き、職場巡回やストレスチェック、健康診断を実施し、委員会での結果の調査、検討を実施。必要に応じて改善する。			